

2010/09/10

## 法科大学院をめぐる現状認識

伊藤塾塾長  
弁護士 伊藤 真

### 1 新司法試験の問題の傾向

#### (1) 短答式問題

256問を330分で解答（1問あたり平均1分20秒ほど）

それぞれの設問は適切な内容といえる。

しかし、すべての範囲を7科目にわたり、しかも正確に暗記しなければならない。

← 受験生の負担は膨大

#### (2) 論文式問題

基本的理解を前提に現場で考えさせる問題で良問といえる。

ただ、論点の数が多くて時間との勝負になっているため、考えすぎると失敗する。

### 2 新司法試験に向けてどのような勉強を行っているか

合格に必要な力

- ① 徹底した基礎力
- ② 考える力（論理的思考力、未知の問題に対処する力）
- ③ 日本語力（特に書く力）

これらを地道な泥臭い学習を続けて修得するしかない。

法科大学院では試験対策ができないため、基本的には自学自習または受験指導校を利用。

### 3 法科大学院の勉強だけで十分であるのか

②に関しては、法科大学院の授業が効果的

入学前に①、②を修得しているかが新司法試験の合否に大きく影響する。

結局、合格しやすい学生を入学させることができたかどうか合格率の差。

### 4 旧司法試験と新司法試験の違いは何か

(1) 法科大学院卒業という受験資格制限が、参入障壁となり、多様性を阻害している。

(2) 受験回数制限が受験生を萎縮させている。

### 5 最後に

法科大学院制度の目的の再確認とその達成度の検証は不可欠と考えます。

以上